

2018年の九州沖縄における気象概況

○2018年全国の天候

2018年の年平均気温は、東日本（関東甲信，北陸，東海）で平年に比べて「かなり高い」，北日本（北海道，東北），西日本（近畿，中国，四国，九州北部，九州南部），沖縄・奄美では「高い」と全国的に高かった。冬の気温は全国的に低かった。特に西日本では1985/86年以降の32年間で最も寒い冬となった。1月中旬には強い寒気が流れ込み北陸地方を中心に大雪となった。2月上旬から中旬にかけても北陸地方を中心に記録的な大雪となり，各地域で農業被害が発生した（日本農業新聞，2018年2月14日）。一転して春の気温は全国的に高く推移した。夏は太平洋高気圧，チベット高気圧の張り出しが強く北日本，東日本，西日本で気温は高く推移し，7月23日には埼玉県熊谷市で41.1℃の最高気温を記録し国内最高気温を更新した。秋は北日本，東日本で「高い」，西日本，沖縄・奄美で「平年並み」であった。12月の気温は東日本，西日本，沖縄・奄美で高く推移した。

年間の日照時間は，東日本，西日本，沖縄・奄美で「かなり多い」であった。冬は東日本で「かなり多い」，西日本で「多い」，沖縄・奄美では「少ない」であった。春は東日本以南で高気圧に覆われやすかったため，東日本，西日本，沖縄・奄美で「かなり多い」であった。夏は東日本，西日本では高気圧に覆われたため「かなり多い」であったが，沖縄・奄美では「少ない」であった。東日本，西日本の秋の日照時間は秋雨前線や気圧の谷の影響で「少ない」，一方北日本，沖縄・奄美では高気圧に覆われ「多い」であった。12月は，東日本，西日本で「かなり少ない」，沖縄・奄美で「少ない」であった。

年間の降水量は，東日本では「平年並み」であったが，その他の地域では多く北日本，沖縄・奄美で「多い」，西日本で「かなり多い」であった。冬は東日本日本海側で「かなり多い」，北日本日本海側でも「多い」であった。一方で，東日本太平洋側，西日本日本海側，沖縄・奄美の降水量は「少ない」であった。春は北日本，西日本で「多い」，東日本で「かなり多い」であったが，沖縄・奄美では冬に引き続いて少なかった。西日本では，7月上旬に平成30年7月豪雨が発生した（気象庁，2018a）。この雨で河川の氾濫，土砂崩れ等により甚大な被害が発生した（内閣府，2019）。この豪雨や台風の影響で西日本の夏の降水量は「多い」となった。沖縄・奄美でも梅雨前線と台風の影響で，北日本では梅雨前線と秋雨前線の影響で「かなり多い」であった。秋は9月に台風21号が徳島県に，24号が和歌山県に相次いで上陸し，高潮，暴風，大雨により大きな被害が発生した。これらの台風の影響もあり西日本の降水量は「多い」であった。沖縄・奄美でも台風や秋雨前線の影響で「多い」であった。東日本では「平年並み」，北日本では「少ない」であった。12月は西日本，沖縄・奄美で「多い」，北日本，東日本で「平年並み」であった。

○2018年九州沖縄の天候

九州沖縄の2018年の各地域の年間、各月の気象および平年値を表1に、福岡、熊本および鹿児島における旬別の各気象要素の推移を図1～3に示した（沖縄気象台，2019；鹿児島地方気象台，2019；気象庁，2019；福岡管区気象台，2019）。

年平均気温は、佐賀では平年に比べて「かなり高い」、他の地域でも「高い」であった。年間の日照時間は多く、福岡では2094.8時間と平年の112%で「かなり多い」であった。降水量は九州南部と沖縄・奄美で多く、宮崎では3167.5mm（平年比126%）に達し「かなり多い」であった。

冬の気温は、強い寒気が流れ込み九州北部、南部とも低く推移した。沖縄では1月と2月の気温は「平年並み」であった。1月の日照時間は、佐賀、熊本、宮崎、鹿児島では「多い」であった。一方で、沖縄では「少ない」であった。2月はいずれの地域も「平年並み」であった。1月の降水量は平年に比べて「多い」となった地域が多かった。2月は「平年並み」の地域が多かった。

春の気温は、寒気の南下がみられず南からの暖かい空気が流れ込みやすかったため、九州北部、南部、沖縄・奄美とも高く、各月で平年に比べて「かなり高い」となった地域が多かった。日照時間は移動性高気圧に覆われ多照となった。降水量は、沖縄・奄美で少なかった。

夏の気温は、九州北部、南部とも「かなり高い」となった月が多かった。沖縄の6月の気温は平年に比べて「かなり高い」であったが、7月、8月は低く推移した。日照時間は九州北部では多照、南部では「平年並み」、沖縄・奄美では「少ない」であった。九州北部の夏の降水量は「平年並み」であったが、8月は「かなり少ない」となった地域もみられた。九州南部と沖縄・奄美では多かった。

秋の気温は九州北部、南部、沖縄・奄美とも「平年並み」であった。9月の日照時間は大分で平年の61%になるなど「かなり少ない」となった地域が多かったが、秋の日照時間は九州北部、南部、沖縄・奄美とも「平年並み」となった。9月の降水量は多く、そのため九州北部、南部、沖縄・奄美の秋の降水量は「多い」であった。

12月の気温は高く推移した。日照時間は「かなり少ない」となった地域が多かった。降水量は鹿児島で平年の344%の245.5mmを記録するなど多かった。

○梅雨

九州北部、九州南部、奄美および沖縄の梅雨入りと梅雨明けは、表2に示した通りである。九州北部の梅雨入りは「平年並み」、南部で平年より「遅い」であった。九州北部、南部の梅雨明けは共に7月9日と「早い」であった。奄美の梅雨入りは5月27日、沖縄が6月1日といずれも平年に比べて「かなり遅い」であったが、奄美、沖縄の梅雨明けは「平年並み」であった。

○台風

2018年に発生した台風は29個（平年25.6個）と多かった。日本へ接近した台風も16個（平年11.4個）と多かった。このうち九州北部，九州南部，奄美，沖縄へ接近した台風はそれぞれ8個（平年3.2個），8個（3.3個），9個（3.8個），13個（7.4個）であった。日本には5個の台風が上陸し，そのうち2個が九州へ上陸した。台風12号は7月29日に三重県伊勢市に上陸した後，福岡県豊前市に再上陸した。8月15日には台風15号が宮崎県日向市に上陸した。

○エルニーニョ，ラニーニャ現象

2017年12月からラニーニャ現象が発生していたが2018年5月に終息した。その後平常の状態となっていたが，2018年11月にエルニーニョ現象が発生し，2019年6月に終息した（気象庁地球環境・海洋部，2019年）。

○気象災害等による農業被害

強い寒気が流入したため，1月11日に長崎で9cm 熊本で3cmの最深積雪を観測した。これにより農業用ハウスの倒壊，防風ネットの破損，畜舎の屋根破損などの被害が発生した（日本農業新聞，2018年2月6日）。また，1月下旬の寒波により鹿児島県指宿市ではソラマメ，エンドウ類が変色や傷んだりするなどの被害が発生した（日本農業新聞，2018年2月6日）。

2018年に九州に接近した台風のうち台風24号が9月29日から30日にかけて沖縄本島，奄美諸島を通過し，宮崎県沖を北上した。その影響で，9月29日に鹿児島県与論島で最大瞬間風速56.6m/s，沖縄県糸数で56.2m/sを，9月30日には宇目（大分県）で日降水量351.5mmを，神門（宮崎県）で364.5mmを記録するなど大分，宮崎，鹿児島，沖縄で強風と大量の降水を観測した。鹿児島県では，サトウキビ，ダイコン，キャベツ，ニンジン，白ネギ，ゴボウなどで被害が出た。畜産，園芸の農業施設でも被害が出た（日本農業新聞，2018年10月17日）。宮崎県では，施設の損壊，田畑の法面やため池の崩壊，ダイコン，キュウリなどの野菜への被害が発生した（日西日本新聞Web版，2018年10月11日）。

火山災害では3月6日に霧島連山の新燃岳で爆発的噴火が発生した（気象庁，2018^b）。噴火により宮崎県や鹿児島県では，降灰対策に追われた（日本農業新聞，2018年3月8日）。4月19日には同じ霧島連山の硫黄山が噴火した。その影響で長江川が白濁し環境基準を超えるヒ素が検出された。そのため，宮崎県，鹿児島県の一部では農業用の取水ができない事態となり，えびの市，伊佐市，湧水町では水稲作付けを見送った地域があった（日本農業新聞，2018年5月5日）。

当年の夏は気温が高く推移したが，農林水産省は7月18日に気象庁が発表した高

温に関する異常天候早期警戒情報を受け、園芸品目と畜産で高温、少雨対策の徹底を促す通知を地方農政局へ送った（日本農業新聞、2018年7月19日）。

引用文献

- 沖縄気象台（2019）沖縄地方の天候 2018年，1-29.
- 鹿児島地方気象台（2019）九州南部・奄美地方 2018年の気候統計値.
- 気象庁（2018^a）平成30年7月豪雨，1-53.
- 気象庁（2018^b）平成30年3月の地震活動及び火山活動について，1-5.
- 気象庁（2019）2018年の日本の天候，1-18.
- 気象庁地球環境・海洋部（2019）エルニーニョ監視速報（No.322），1-7.
- 内閣府（2019）平成30年7月豪雨による被害状況等について，1-204.
- 西日本新聞 Web版（2018）宮崎県の農水産被害43億円超 台風24，25号，10月11日西日本新聞.
- 日本農業新聞（2018）降雪被害額1億8220万円 熊本県まとめる，2月6日日本農業新聞.
- 日本農業新聞（2018）南国に猛烈な寒波 鹿児島JAいぶすき管内農作物に被害，2月6日日本農業新聞.
- 日本農業新聞（2018）大雪の農業被害甚大 6道県ハウス全半壊1300棟超，2月14日日本農業新聞.
- 日本農業新聞（2018）降灰対策に農家懸命，3月8日日本農業新聞.
- 日本農業新聞（2018）硫黄山噴火で宮崎，鹿児島 農業用取水を制限，5月5日日本農業新聞.
- 日本農業新聞（2018）少雨 高温対策徹底を 農水省通知影響抑制へ注意喚起，7月19日日本農業新聞.
- 日本農業新聞（2018）鹿児島県台風被害農業関係49億7200万円サトウキビなど甚大，10月17日日本農業新聞.
- 福岡管区気象台（2019）2018年の九州北部地方の天候，1-4.

（生産環境研究領域 農業気象グループ 脇山恭行）

福岡

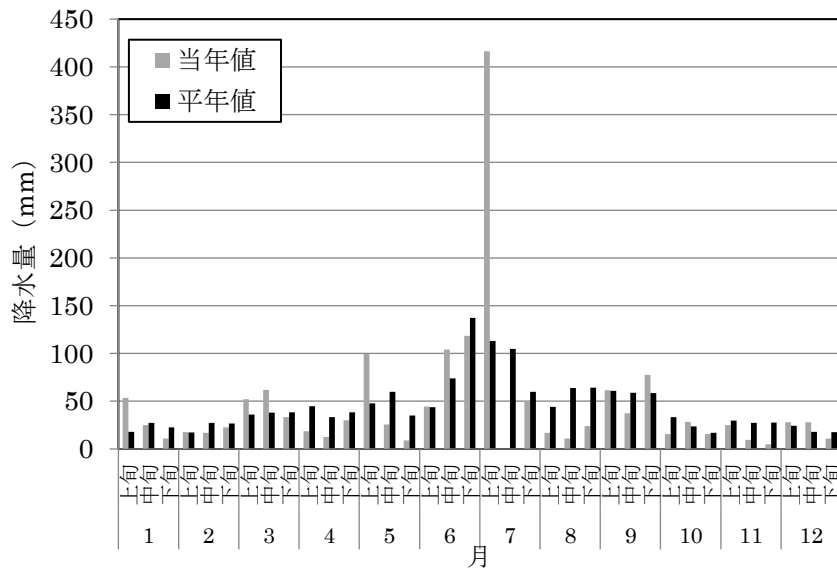
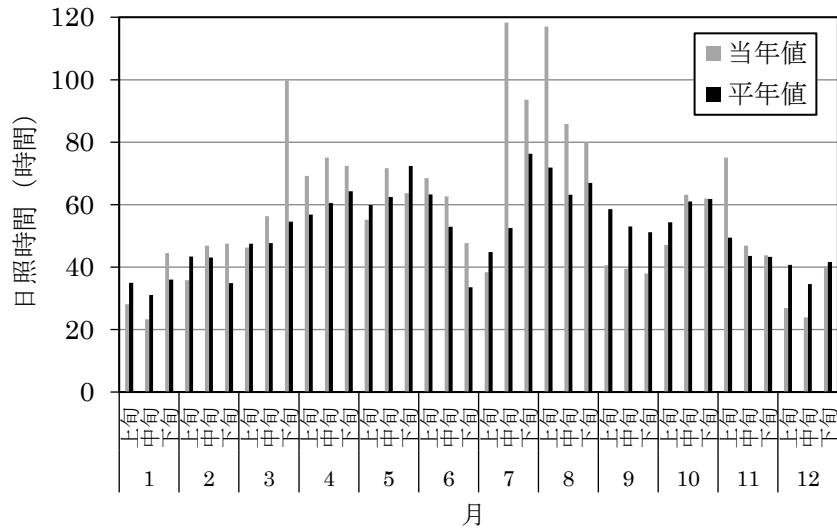
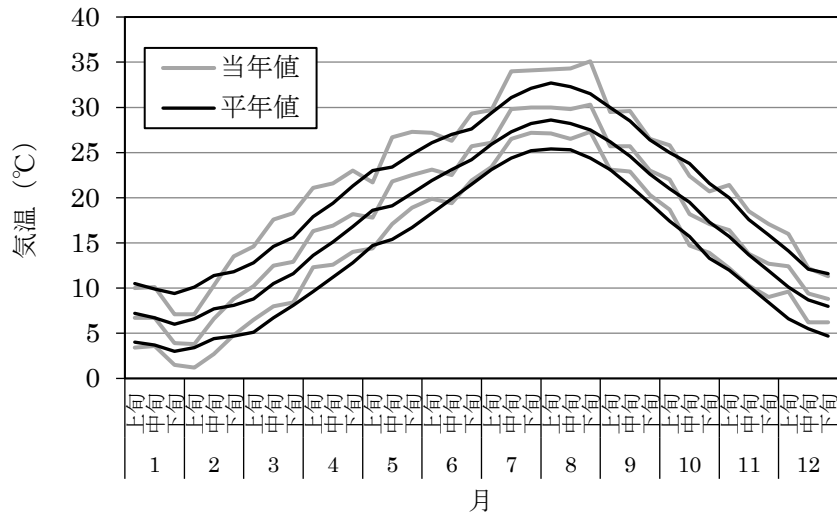


図1 2018年福岡の各気象要素の推移

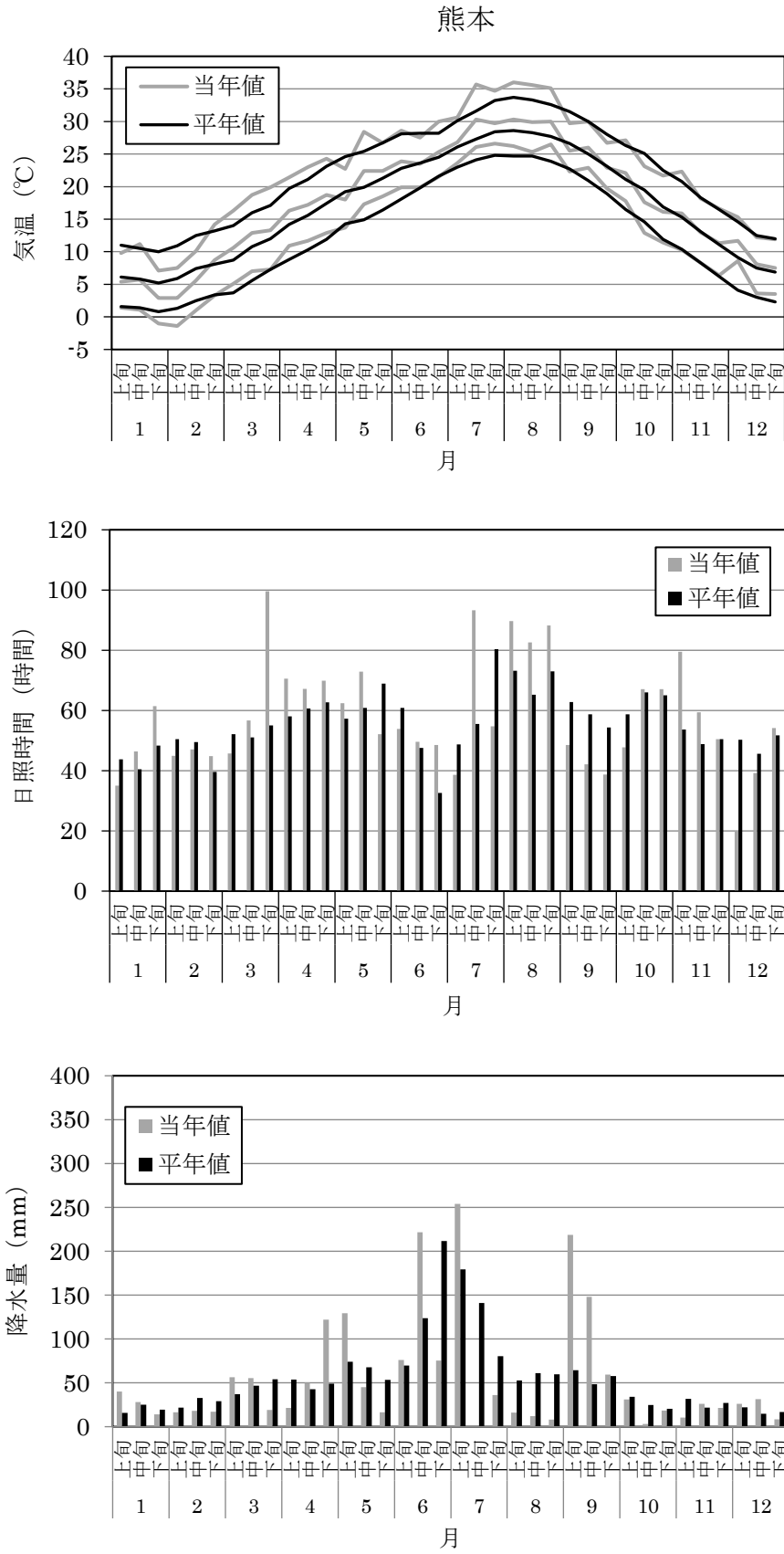


図2 2018年熊本の各気象要素の推移

鹿児島

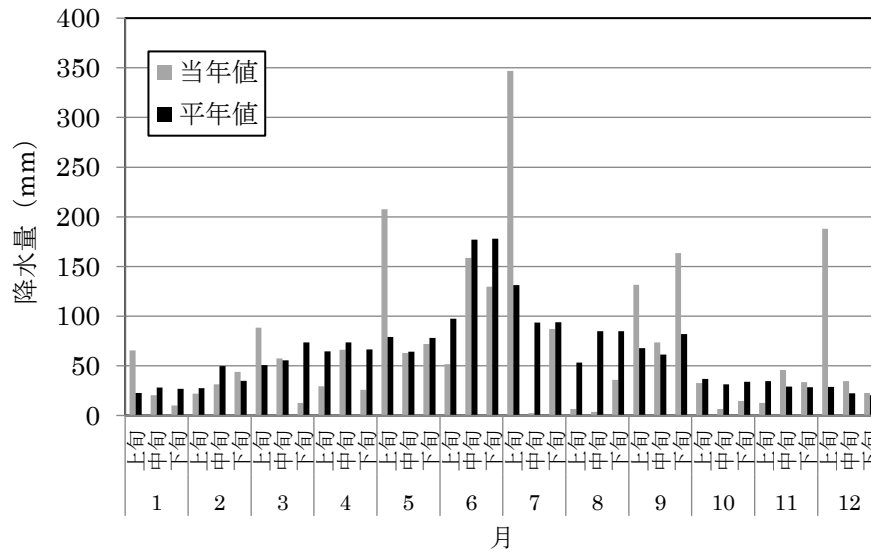
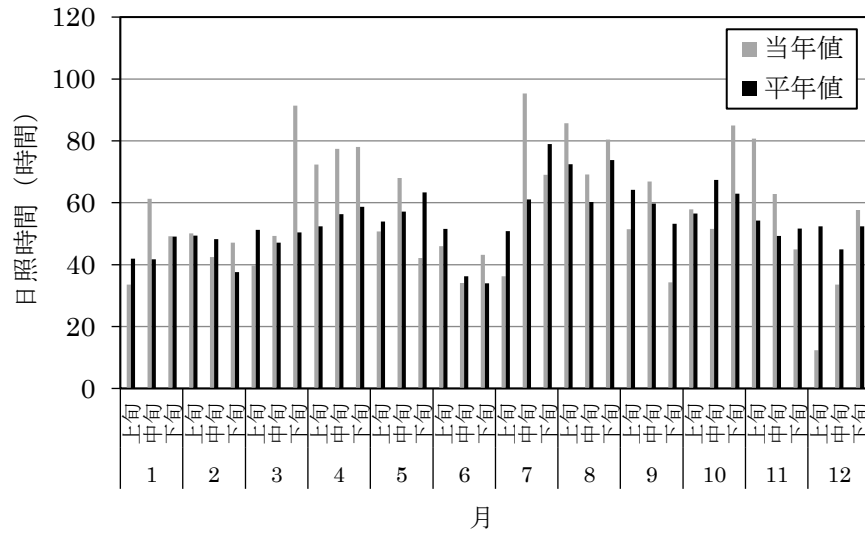
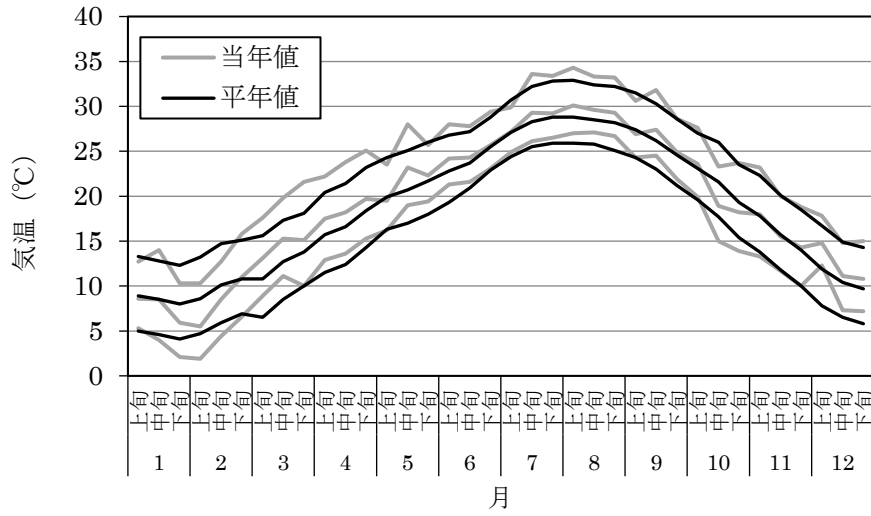


図3 2018年鹿児島各気象要素の推移

表 2 2018 年の九州沖縄における梅雨入りと梅雨明け（気象庁，2019）

地域	梅雨入り		梅雨明け	
	2018 年	平年	2018 年	平年
九州北部	6 月 5 日 (0)	6 月 5 日	7 月 9 日 (－)	7 月 19 日
九州南部	6 月 5 日 (+)	5 月 31 日	7 月 9 日 (－)	7 月 14 日
奄美	5 月 27 日 (+)*	5 月 11 日	6 月 26 日 (0)	6 月 29 日
沖縄	6 月 1 日 (+)*	5 月 9 日	6 月 23 日 (0)	6 月 23 日

0：平年並み，＋：平年より遅い，＋*：かなり遅い，－：早い